

「おびひろ十勝」 今、郷土に新しい風を！



挑戦します

開拓精神

生活重視

市民参加の帯広を

きつとね！

はじめに

時代は今大きな変革期にあります。このままではいけない、従来の仕組みや考え方の延長では生き残れないという危機感は、誰もが持っているのではないのでしょうか。私たちの帯広市にあっても多くの借金を抱えた財政をいかに健全化させていくか、雇用の創出と税収増を図る産業構造の転換にどう取り組むか、65歳以上の高齢人口が4人に一人という現状を踏まえた医療・福祉問題、少子化や教育への対応など乗り越えるべき課題は山積しています。

米沢のりひさは、従来の延長線ではなく、企業経営の経験とグローバルな視点をもって、これらの課題に挑戦します。

「今日よりも明日がきっと良くなる。」という心の強さを求められているのです。

私のふるさととは、ここ「帯広」です。むかし幼い頃を思い出すと夕方家に帰るとき、友達と別れるとき「それじゃ又明日ね」「きつとね」と声を掛け合いました。これは、「明日もきっといい日だ、明日も元気でいようね」という明日への希望を前提とした小さな約束でした。

米沢のりひさのまちづくりは、この「きつとね」を旗印に進めたいと思っています。

手を伸ばせば触れ合える距離の約束です。

私が育った「帯広」は、そんな優しさと温かさのあふれる緑豊かなまちです。市長と市民、市民相互、市長と市職員、そして十勝町村の方々、すべての間に誠実さに裏打ちされた信頼の輪を広げ、子どもたちやお年寄りの笑い声があふれ、人が集い・交流し、中小企業が元気な帯広を子どもたちに残していきたいと考えています。

晩成社一行が開拓の鋤を入れて127年、市民参加のまちづくりでのさきがけとなった「帯広の森」プロジェクトから約50年、先人はまさに「開拓精神」の果実を私たちに遺してくれました。いずれもそれまでの常識・やり方への挑戦、変化の勇氣ある選択でした。

私たちはこれからの50年、100年を見据えた今日の着実な「きつとね」を勇氣と覺悟を持って進めなければなりません。

私は、先頭に立って汗をかくためにふるさとに帰ってきました。

みなさん、市民一人ひとりの「夢かなうまち おびひろ」を一緒に創り上げていきましょう！

米沢 のいひさ の「きつとね！」まちづくり

私が帯広市長を志すにあたり、まちづくりに対する「5つの基本姿勢」と「5つの視点」、さらには「個別の施策」をもとに、市政運営に取り組めます。

<5つの基本姿勢>

◇一党一派に偏しない「市民党」を貫きます

まちづくりに政党の論理は不要です。保守とか革新とかの色分けも、かつてのイデオロギーの対立も今は不毛です。視線は、あくまでも「すべての市民の幸せ」です。

◇強いリーダーシップで地域を活性化します

これまでの民間経験、海外経験を生かし、地域の発信力を強め人脈をフル活用したトップセールスで地域を活性化します。

◇市民との連携、十勝との連携(スクラムとかち)を進めます

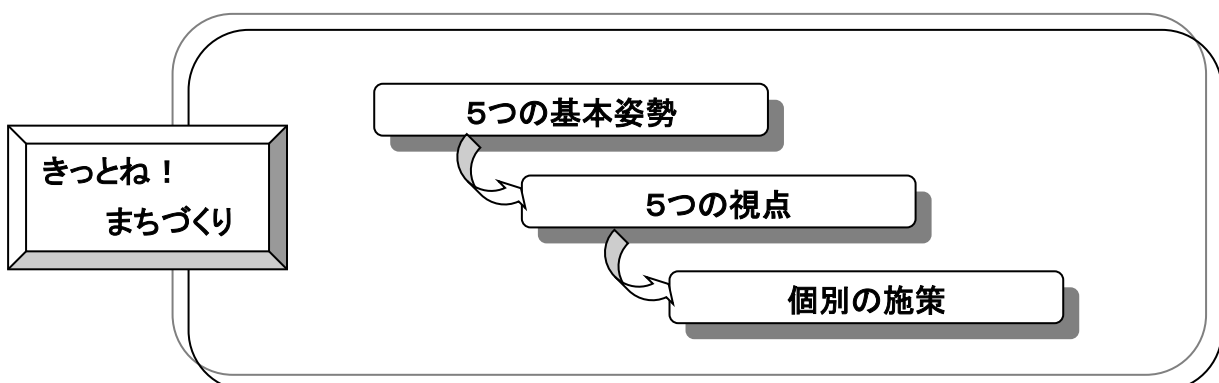
官主導の「地方公共団体」から市民主体・市民との連携による「自治体」への転換。十勝と帯広は一体であり、強い連携のもと地域間競争に臨みます。

◇情報公開の徹底で、透明でクリーンな市政を実現します

市民との情報の共有化なくして、市民参加や市民との協働はありません。情報の公開を徹底して説明責任をしっかりと果たし透明でクリーンな市政を実現します。

◇自ら考え自ら主張・発信できる地方政府をめざします

地域主権は、地域が中央依存から自立すること。地域のことは自らが考え、自ら主張し発信できる地方政府をめざします。



<5つの視点>

◇「開拓精神」で地域活性化

帯広の地に開拓の鍬が入れられて120年余。今この厳しい時代に、先人の偉大な開拓精神を学び、将来にわたる成長産業を育成し地域を発展させる取り組みが求められています。地元の中小企業を元気にするとともに、新たなベンチャー企業の育成、環境関連企業を呼び込む。そうした地域をあげた取り組みが今日の重要なテーマです。強いリーダーシップと行動力で地域の元気回復に取り組みます。

◇100センチの視点 & 生活者重視の視点

100センチは子どもの視線の高さ、そして車いすを利用する方の視線の高さです。「100センチの視点」とは、子ども、高齢者、障がい者など社会的な支援を必要とする方々の視点に立って物事を考えることであり、誰にも温かくやさしい生活者重視の視点は、まちづくりの基本です。市民一人ひとりが幸せといきがいを感じられる安心・安全で人に優しい地域づくりを推進します。

◇できたての酸素で思いっきり深呼吸

帯広市は、一昨年「環境モデル都市」に認定されました。地球環境問題は待ったなしの状況です。「グローバルに考えローカルに行動する。」世界に発信できる先進的な取り組みが求められています。低炭素地域社会の実現には、行政、企業・事業所、すべての市民の強い意思と取り組みが不可欠です。できたての酸素が常に身近で感じられるような環境に配慮したまちづくりをダイナミックに進めます。

◇未来に向けた人づくり

未来に向けたまちづくりの大きな柱は、地域における人づくりです。次代を担う子どもたちの育成をはじめ、農業や企業・商業経営における人づくり、モノづくり技術を高める人材育成、文化やスポーツ、環境分野などに関わる人づくりは、未来に向けたまちづくりにつながります。帯広畜産大学をはじめ、企業や関係機関などとの連携を強化するとともに、「とちかち未来塾」を構想し実現します。

◇新しい都市経営と市民参加

時代は大きな転換期を迎えています。今、わが国の行政システムや制度、地方自治は、「官」から「民」の流れの中で、節度や良識を保ちつつ、新しい公共の担い手や新しい都市経営が求められています。市民の声を聞き、市民の満足度を高める質の高い行政サービスの提供、財政破綻を招かない未来に続くまちづくりをめざします。

<個別の施策>

◎力強い産業の育成と雇用創出……元気なおびひろの実現

- ・ 食の産学官連携を強化し、(仮称)「フードバレーとかち」構想を推進します。
- ・ 良質な食料生産を推進し、国内外に発信する食料基地を確立します。
- ・ 地場農畜産物の地域ブランド化の確立を推進します。
- ・ 新たなベンチャー企業の育成支援、環境関連企業の誘致、起業を図ります。
- ・ 中小企業者や関係者の協働でさらなる地域産業の振興を図ります。
- ・ 帯広・十勝の魅力を国内外に発信するPRプロジェクトを立ち上げます。
- ・ 十勝の風土、地域資源を活用した滞在型観光やコンベンション誘致を進めます。
- ・ 都心部に「にぎわい」を復活させる「まちなか再生」に取り組めます。
- ・ 公共施設などで地元木材の活用を進めます。
- ・ 移住短期体験などにより、交流人口・定住人口の拡大を図ります。

◎安心安全・福祉のまちづくり……人に優しいおびひろの実現

- ・ 高齢者や障がい者を地域で支える仕組みづくりを進めます。
- ・ 待機者が多い特別養護老人ホームなどの増床に努めます。
- ・ 「子育て応援パスポート事業」により、地域ぐるみで子育てを応援します。
- ・ 細菌性髄膜炎及び子宮頸がんの予防ワクチン接種への助成制度を創設します。
- ・ 国民健康保険及び後期高齢者医療制度で人間ドックを復活します。
- ・ 乳幼児等医療費助成制度を小学校(市民税非課税世帯)まで拡大します。
- ・ 新たな高齢者のバス券事業を創設します。
- ・ 学校などの耐震化を進めます。
- ・ 防災・防犯・交通安全の取り組みを推進します。

◎環境で世界に発信……環境都市おびひろの実現

- ・ 環境基金を新設し、省エネ・新エネ施策を推進します。
- ・ 公共交通・自転車の利用促進を図ります。
- ・ 高断熱・新エネルギーなどのエコ住宅への建設支援を行います。
- ・ 太陽光やバイオマスなど環境負荷の少ないエネルギーの利用を促進します。
- ・ 環境モデル地域を指定して、地域ぐるみの運動を行います。
- ・ 二酸化炭素の吸収源として、緑化を推進します。
- ・ 帯広の森を循環型社会の可能性検討の場として活用します。

◎未来に投資するまちづくり…人輝くおびひろの実現

- ・ 地域の人材育成を行う「とちまち未来塾」を創設します。
- ・ 地域発展に必要な高等教育機関のあり方について検討を進めます。
- ・ 帯広畜産大学との連携を強化し、整備拡充を促進します。
- ・ 幼小連携、小中連携を進め、学校教育の円滑な移行に努めます。
- ・ 子どもたちの習熟度を高める小人数指導の充実を図ります。
- ・ 学校図書館と市図書館の連携を強化し、子どもの読書機会を充実します。
- ・ 学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもをサポートします。
- ・ 子どもの健康、食育、地産地消を推進する学校給食調理場改築の基本構想をつくります。
- ・ アイヌ民族の歴史・文化の保存・伝承に努めます。
- ・ 総合体育館の改築を進めます。
- ・ 図書館の休館日をなくすなど、サービスの向上に努めます。
- ・ 帯広・十勝の応援団ネットワーク(人材ネットワーク)を構築します。

◎新しい都市経営…未来に続くおびひろの実現

- ・ 重要政策決定に当たり市民の意見を聴取する新たな仕組みをつくります。
- ・ 市職員の意識改革により、市役所を市民のために働く集団にします。
- ・ 将来に大きな負担を残さないよう財政の健全化を進めます。
- ・ 市役所のさらなるスリム化など行政コストを徹底して見直します。
- ・ 情報公開を進め、透明性の高い行政運営を行います。
- ・ 男女共同参画社会を推進します。
- ・ 高齢者による新しい公共への参画の仕組みづくりを進めます。
- ・ まちづくりへの若者の積極的な参画の仕組みをつくります。

<10の重点施策>

- ☆ 食の産学官連携を強化し、「フードバレーとまち」構想を推進します。
- ☆ 帯広・十勝の魅力を国内外に発信するPRプロジェクトを立ち上げます。
- ☆ 都心部に「にぎわい」を復活させる「まちなか再生」に取り組みます。
- ☆ 「子育て応援パスポート事業」により、地域ぐるみで子育てを応援します。
- ☆ 細菌性髄膜炎及び子宮頸がんの予防ワクチン接種への助成制度を創設します。
- ☆ 乳幼児等医療費助成制度を小学校（市民税非課税世帯）まで拡大します。
- ☆ 環境基金を新設し、省エネ・新エネ施策を推進します。
- ☆ 地域の人材育成を行う「とまち未来塾」を創設します。
- ☆ 子どもたちの習熟度を高める小人数指導の充実を図ります。
- ☆ 重要政策決定に当たり市民の意見を聴取する新たな仕組みをつくります。

米沢 のいひさ プロフィール

■帯広生まれの帯広育ち……そしてUターン

- 1956年3月12日 帯広市生まれ(54歳)、妻と社会人の長女、長男
- ・双葉幼稚園、柏小学校・東小学校、第六中学校、柏葉高校卒業
 - ・中学、高校、大学を通じてバレーボール部所属

■企業の経営・成長指導……グローバルな視点で

- 1978年 3月 北海道大学法学部卒業(民法・民事訴訟法を専攻)
- 1978年 4月 旧石川島播磨重工(株)(現IHI)に入社(アルジェリアに駐在)
- 1985年11月 日本合同ファイナンス(株)(現(株)ジャフコ)入社
- 1989年 6月 同社ロンドン駐在員(1993年所長就任)
- 1995年 6月 北海道ジャフコ(株)取締役社長就任
- 2005年 2月 ジャフココンサルティング(株)取締役社長就任
- 2010年 1月 (株)ジャフコ経営理事 現在に至る
- ・この間、政府委員、大学講師などを多数歴任